

刑法附則註解大成全

特30

23

館書圖京東	
函三四	門新
架八	部一一
號	類

035942-000-7

特30-23

刑法附則註解大成

吉岡 完/著

M15

BBP-0540



特30

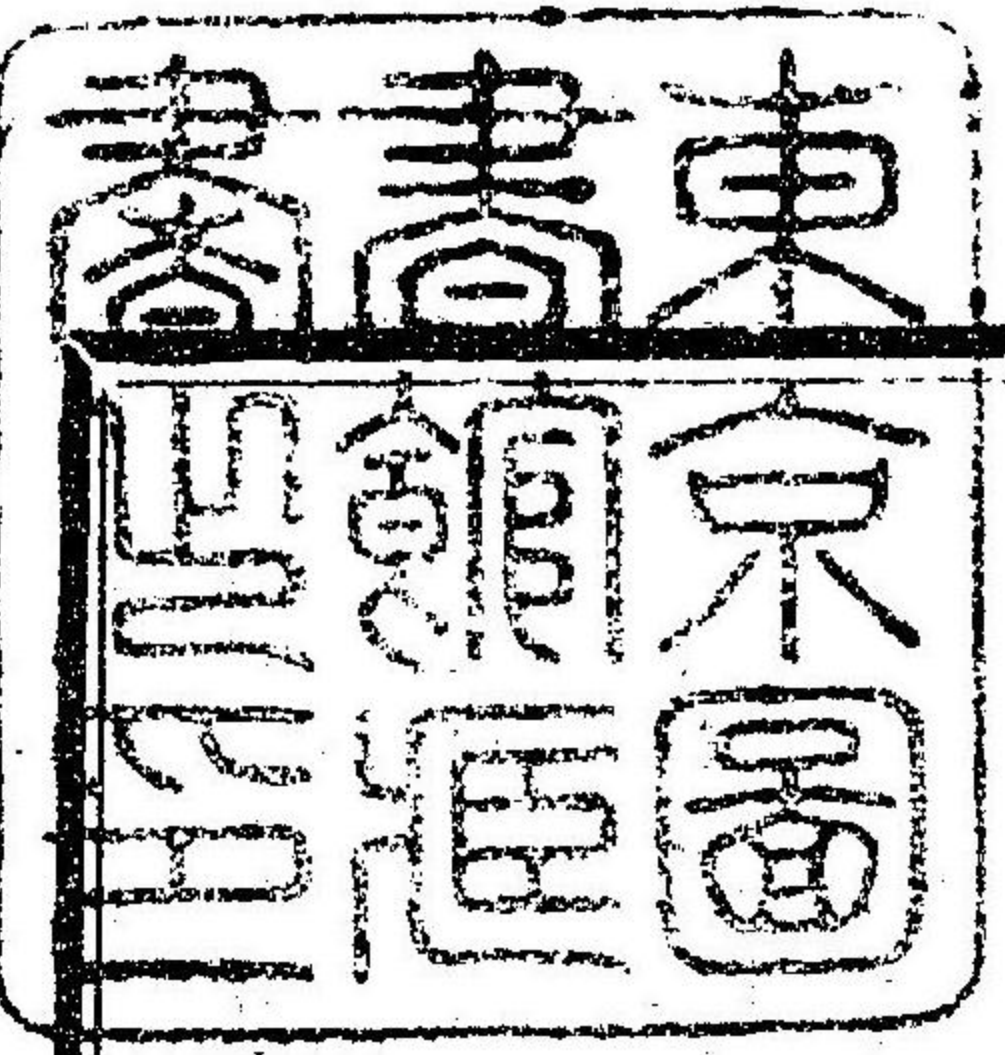
23

森作太郎  
吉岡完註  
解

方去附則註解大成全

明治十五年一月

松雲堂刻



第六拾七號

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月十九日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

刑法附則目錄

第一章 主刑執行

第二章 監視

第三章 假出獄及特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

刑法附則註解大成

森 作太郎 閱

吉岡 完註解

第一章 主刑執行

○刑ニ主刑附加刑ノ二大別アリ本章ハ其主刑執行ノ規則ナリ

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ハ檢察官書記及ヒ獄

司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告

示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前

十時前トス

○死刑ハ監獄場内ニ於テ行フモノナリ○檢察官ハ檢事長檢事檢事補等ヲ云フ○獄司ハ監獄長ヲ云フ○死

刑ノ言渡確定シタルキハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ  
司法卿ニ差出シ司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令  
アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲スモノナリ○刑法  
第十二條第十三條治罪法第四百六十條第四百六十二  
條第一項參看

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關ス  
ル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得  
タル者ハ此限ニ在ラス

○執行ニ關スル者トハ前條ニ掲ケタル檢察官書記獄  
司獄丁等ヲ云フ

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立

會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事  
局ニ納ム可シ

○死刑ノ執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラ  
シメ絞首シタル遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時  
間ヲ過ギサレバ埋葬若クハ下付スルヲ得ザルモノ  
トス○始末書ニハ檢察官書記獄司各々署名捺印スル  
モノナリ○治罪法第四百六十三條參看

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭○一月三日

孝明天皇祭○一月三十日

紀元節○二月十一日

春季皇靈祭○春分日明治十五年ハ三月二十一日  
 仁孝天皇祭○二月二十七日  
 神武天皇祭○四月三日  
 六月大祓○六月三十日  
 秋季皇靈祭○秋分日明治十五年ハ九月二十三日  
 神宮新嘗祭○十月十七日  
 天長節○十一月三日  
 後桃園天皇祭○十二月六日  
 新嘗祭○十一月二十三日  
 光格天皇祭○十二月十二日  
 十二月大祓○十二月三十一日

○刑法第十四條參看

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法脚ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法脚ノ命令ヲ受ケ決行ス可シ

○死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女ハ懷胎ト申立ルモ懷胎ナルコト分明シタル上ニアラザレハ死刑ヲ停止セザルナリ○刑法第十五條參看

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親族故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルコトヲ得  
 ○死刑ニ處セラレタル者ノ遺骸ハ其地方ニテ定メタ

ル場所ニアラザレバ埋ムヲ得ザルナリ○親族故舊  
ヘ下付セラルハモ式ヲ以テ葬ムルヲ得ス○刑法第  
十六條參看

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニ  
テモ獄司ノ許可ヲ得テ其親族故舊ニ接見スルヲ得

○裁判申渡ヨリ絞首セラルハマデ何時ニテモ親類故  
舊ニ面會スルヲ許ス

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ属籍氏名年齢職業  
住所及モ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス  
可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

○屬ハ華士族平民ヲ云フ籍ハ本籍ヲ云フ

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司  
ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可  
シ

○徒刑又ハ流刑ニ處セラレタル者ハ内務卿ノ命令ヲ  
待テ後嶋地ニ發遣ス○刑法第十七條第十八條第十九  
條第二十條參看

第十條 徒刑ノ囚ハ嶋地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服  
セシムルヲ得

○獄外ノ役トハ獄舎外ノ地ニ於テ開墾等ノ役ヲ取ラシムルヲ謂フ

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

○流刑ノ囚ハ定役ニ服セサルモノナレモ本人自カラ請テ工業ヲ爲ント欲スルキハ之ヲ許シ其工錢十分ノ七ヲ本人ニ給與ス

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

○刑法第二十一條ニ依リ無期流刑ノ囚五年ヲ經過シタルキ有期流刑ノ囚三年ヲ經過スルキ行政ノ處分ヲ

以テ幽閉ヲ免セントスルキハ内務司法兩卿ノ許可ヲ受ケテ之ヲ免シ嶋地ニ於テ地ヲ限り居住セシムル者トス

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家属ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

○獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時無期徒刑ノ囚ハ十五年有期徒刑ハ刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後ハ行政上ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得此場合ニ於テ家族ヲ招キ同居セシムルキハ亦之ヲ許ス 刑法

第二十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條參看



第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ己々  
トテ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコト  
得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シ  
タル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執  
行ス可シ

○幽閉ヲ免セラレタル流刑ノ囚人再ヒ他罪ヲ犯シタ  
ルハ流刑期限内タリトモ之ニ拘ハラズ嶋地ニ於テ  
直チニ其再犯ノ刑ヲ執行ス

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セ

シムルコトヲ得

○懲役及ヒ重禁錮ハ獄内ニ於テ役ニ服セシムルノミ  
ナラス獄外ニ於テ役ヲ取ラシムルコトアリ 刑法第二  
十二條第二十四條參看

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サ  
ト請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

○禁獄及輕禁錮ハ俱ニ定役ナシト雖モ流刑ノ囚人ト  
固ク本人自ラ好シテ工業ヲ爲サント請フハ亦之ヲ  
許ス 刑法第二十三條第二十四條參看

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後  
犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セス

○定役アル囚人服役百日内ナル者ハ刑法第二十五條ニ依リ工錢ヲ給與セサルヲ以テ法トス本條ハ服役現内ニ於テ更ニ罪ヲ犯シ定役アル刑ニ處セラレタル者モ亦其再犯ノ刑期百日内ナルキハ工錢ヲ給與セサルヲ云フナリ

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

○監獄則ハ明治十四年太政官第八十一号ヲ以テ達セラレタリ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セザル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦

同シ

○刑ハ其一身ニ止ルヲ以テ原則トス故ニ罰金科料ノ刑ニ處セラレ未タ上納済ニ至ラサル前本人死去シタルキハ其相續人ヨリ之ヲ徵収セサルナリ

第二章 監視

○監視ハ附加刑ノ一ニシテ本章ハ其規則ナリ

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

○監視ハ犯罪人ヲシテ再ヒ罪ヲ犯スヲ勿ラシメンカ爲メニ主刑ノ終リタル後犯人ノ行狀ヲ監視スル所ノ

規則ナリ 刑法第三十四條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條參看

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

○監視ニ付スヘキモノハ先ツ本人ヲシテ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時主刑ヲ執行シタル監獄ヨリ其住所ノ地ノ警察所ニ之ヲ護送シ其警察所ヲシテ第二十六條以下ノ規則ニ從テ監視ヲ執行セシム

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

○監視ノ起算滿期トハ何月何日ヨリ起算シ何月何日滿期ト云フヲ記載ス

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過グル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ  
○犯人ノ住所一日ニテ護送スルヲ能ハサル遠地ニ在ルキハ先ツ最モ近キ警察所ニ護送シ夫ヨリ犯人住所ノ警察所ニ遞送スルナリ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

○本條ハ第二十四條ノ場合ニ於テ犯人ヲ受取リタル警察所ヨリ犯人住居ノ地ノ警察所ニ送致スル手續ナリ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限

間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

○遵守ス可キ條件トハ第二十七條ニアル條件ヲ云フ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
- 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ

申請シ許可ヲ受ク可シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

○家宅トハ監視ニ付セラレタル犯人ノ家宅ヲ云フ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

○本條ハ第二十七條第三ノ許可アリタルキノ場合ノ

手續ナリ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ宜キニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

○本條ハ第二十七條第四ノ許可アリタルキノ場合ノ手續ナリ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ

歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ヲク及ヒ引取人ナキ時

ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ  
供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

○懲治場トハ刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ  
記載セル幼者及ヒ瘡痍者并ニ尊屬親ノ願ニ依リ放恣  
不良ノ幼者ヲ入ルベキ場所ヲ云フ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ  
住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ  
殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

○監視ノ期限中懲治場ニ留置シタル者ハ其日數ヲ監

視期限ニ算入スルナリ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ

付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ  
付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ  
監視ヲ執行ス可シ

○通算トハ前ノ監視期限ト後ノ監視期限トヲ合セテ  
其期限間監視スルヲ云フ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時

ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ  
○罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セサレハ刑  
法第二十七條ニ依リ一圓ヲ一日ノ輕禁錮ニ換フ此場

合ニ於テハ其日數ハ監視ノ日數中ニ算入スルナリ  
 第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悔改  
 ノ狀アル時ハ警察官ヨリ事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ  
 命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

○假ニ監視ヲ免セラレタルモノハ第二十七條ノ條件  
 ヲ遵守スルニ及ハザルナリ○刑法第四十一條參看  
 第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル  
 時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

○假ニ監視ヲ免セラレタル者ト雖モ住居轉移ハ監視  
 同様ナリ○刑法第五十三條參看  
 第三章 假出獄及ヒ特別監視

○重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改  
 ノ狀アル時ハ流刑ノ外ハ其刑期四分ノ三ヲ經過シタ  
 ルノ後又無期徒刑ハ十五年ヲ經過スルノ後ハ行政ノ  
 處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得ルモノニシテ本章  
 ハ其假出獄并ニ假出獄中特別監視ノ規則ナリ

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯  
 人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サ  
 レンヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯  
 人ニ下付ス可シ

○證票ハ第四十條ニ記載ノモノヲ云フ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セザル事

○殘期トハ譬へハ輕懲役八年ニ處セラレタルモノ六  
年間服役シタルキハ二年ハ即チ殘期ナリ○特別監視  
トハ第四十一條ヨリ第四十五條迄ノ方法ノモノヲ云  
フ○出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルトハ假出獄中

ノ日數ハ刑ノ期限ニ拘ハラサルヲ云フ

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財  
産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請  
シ許可ヲ受ク可シ

○重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ別段言渡無クシテ  
刑期ノ間自カラ財産ヲ治ムルヲ禁セラル○刑法第  
五十五條參看

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシ  
メ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添へ犯人ヲ其住居  
ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ  
○證票ノ謄本トハ第四十條ノ證票ノ寫ナリ



第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

○刑法第五十六條參看

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得ザル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハザル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ

ヲ許サズ

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サズ

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サズ

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアルヘシ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於

テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

○警察所トハ犯人住所ノ地ノ警察所ナリ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ノ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ビ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

○刑法第四十五條第四十七條第四十八條治罪法第二百條第四百六十二條第二項參看

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在申ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セズ

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セズ

○醫師鑑定人通辨人翻譯人ノ日當旅費止宿料ハ本人ノ請求ナシト雖モ給與ス○治罪法第九十條參看

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メザル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

○贓物ノ還給損害ノ賠償ヲナサシムル規則ナリ

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ

請求ニ因リ還給セシムル者トス

○刑法第四十六條第四十七條第四十八條參看

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラフシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

○受ケトハ貰ヒタルヲ典物トハ質物ナリ  
第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否  
トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分スヘシ

○他物ト交易シテ贓物ヲ得タル者其贓物現在スル時  
ハ第五十五條ニ由テ處分スルヲ云フ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可ラサル  
時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ  
得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯  
罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得  
但失火ハ此限ニ在ラス

○刑法第四十六條第四十七條第四十八條治罪法第二  
條第八條參看

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑  
事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判己ニ終リタル後  
ハ民事裁判所ニ非サレバ之ヲ請求スルヲ得ス

○刑法第四十八條治罪法第四條第五條第七條第二百  
二十四條參看

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ  
請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得  
得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ  
可シ

○訴訟ノ程式トハ訴訟用罫紙ニ認メ正副二通ヲ出ス  
ノ類ヲ云フ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其  
相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者  
還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代  
限ノ處分ヲ請求スルヲ得

刑法附則註解大成終

明治十五年一月廿六日出版御届  
同 年二月出版

〔定價貳拾錢〕

註解人

大阪府平民

吉 岡 完

同府下東區今橋二丁目  
三十番地

出版人

大阪府平民

鹿 田 靜 七

同府下東區安土四丁目  
三十八番地

諸國賣捌書肆

東京	北畠茂兵衛	尾の道	木村義助
同	稻田佐吉	大津	小川九平
同	吉川半七	讚岐	岡田爲助
西京	田中治兵衛	同丸龜	開文舍
同	杉本甚助	土佐	澤木駒吉
大坂	柳原喜兵衛	徳島	坂井萬吉
同	松村九兵衛	姫路	山野長平
伊豫	土肥與平	神戸	鳩居堂
同	向井藏次良	福岡	林斧助
同	玉井新次良	和歌山	平井文助

